

辰野
隆

印
象

— 永井荷風 —
—

印

象

—
永井荷風
—

どういふ風の吹きまわしか此頃さまざまな人士と対談する機会を屢々与えられた。週刊朝日の連載対談の他にも、内田百閒、岩田豊雄、徳川夢声の諸彦、どちらを向いても一癖も二癖もある豪のものばかりで、毎度たじたじの気味だったが、中でも永井荷風、谷崎潤一郎との鼎談は甚だ珍妙で楽しいものだった。谷崎が突然上京し、荷風大人を訪れて久闊きゆうかつを叙することとなり、その好機を捉えて中央公論が両文豪の対談を目論むのは極めて当

然であるが、僕が飛び入りするのは如何にも弥次馬で、少々後めたい気もしないではなかった。然し、谷崎は近年、口が重くなつて、昔ほど喋らなくなつた。昔は全く賑かで、談論風発であつたのが、先ごろ彼を京都に訪れて対談した時、昔とは異つて、口数が少くなつたのに僕は驚いたのであつた。そこで、彼は荷風大人と二人きりでは少し寂しすぎると思つたらしい。兎に角、辰野を引っぱり出せと我儘を言つたのださうである。両文豪とゆるゆる談笑して晩秋の小半日を送るのは正に会心事と思つたので、僕は一議に及ばず快諾した。荷風大人には初

見参ではあるが、大人が近頃親近しているバルザシアン小西茂也君は僕の親友でもあるから、必しも無縁ではなく、且つ大人の制作は『あめりか物語』『ふらんす物語』以来の読者として熟知しているので、旧友谷崎と連れ立って市川の某邸に大人を請じて鼎談することとなったのである。一座は嶋中社長と受持記者と速記者を加えて六人、十一時半から午餐を挟んで三時まで、尽きぬ閑談に時の移るのを忘れた。僕は先ず取敢えず大人と初対面の挨拶を交わしたものの、初会の印象はたちどころに消え去って応接に暇のない清談や濁話が入り乱れ、殊に濁話

に生彩があつた。フローベールの紋切型字典 (Dictionnaire des idées reçues) の中に「男ばかりの食事——先づ牡蠣を注文してから、白葡萄酒、それから猥談」という件りがあるが、まこと洵にフローベール我を欺かず、食膳には牡蠣も白葡萄酒も出なかつたけれども、最後の話は滾々こんこんと湧き滔々と流れた。而も己の欲する所に従つてのり矩を躪こえずと云つたところが、何となく論語に似ているようにも思えた。両雅客の談笑するのを觀且つ聴いていると、荷風は仲尼ちゆうじの如く潤一郎は顔回げんかいの如しと云えなくもなかつた。俱にその樂みを改めざるところに論語臭いと

ころがあつたのだ。仮令論語でも近代的になると、多少エロスと手を握るようにもなるらしい。デカルトが私生児を生ませたからと云つて「我考う……」の我が複数になるわけでもなく、「クレオパトラの鼻がもう少し低かったら……」というパスカルの言葉には粹な十七世紀サロンの後味がある。全体、今の日本はフランス革命の前夜なのか、それともウォーターロー会戦の直後なのだろうか、というような疑問も両文人の閑談を聴聞しているうちに、一再ならず僕の脳裡を掠めた。革命前夜なら、ラクロ荷風とアベ・プレヴオ潤一郎の対話で、ウォータ

ーロー直後なら……未だ考えずである。

兎に角、楽しい賑かな会談であつた。文学の話、現代風俗の話、生活の話、書籍の話、女性の話……いつ迄も話の泉が涸れなかつた。此の日特に僕の興味をひいたのは荷風大人の風体であつた。先ず何処から見てもバタヤさんである。身につけるものは頭のとっぺんから足の先まで古いものずくめで、焦茶の烏打帽、茶の背広、ネクタイは黒メリンスの布呂敷の切れ端かと思へた。黒だか紺だかわからぬ摺りきれたズボン、素足に日ひより和下駄といういでたちであつた。然し、それにも拘らず何処かに曾

て欧米で生活した人士の面影が残っていて、往々パリのラテン区の裏町に住んで、読書三昧に年月を送り暮らす古典学者と云った趣さえなくもない。歳は六十九と承つたが、前歯が二本欠けているにもかかわらず、血色がよくて、五体がしなやかで、その健脚はなおオペラの鼠やパンパンを漁るに足りそうである。声調にも若々しさが漲って、粹者通人の話し振りよりも寧ろ明治時代の学者や老書生の談論に幾い^{ちか}ところがあつた。戯作文章を以て韜晦^{とうかい}しても、本質は山の手育ちの坊ちゃん^{おむき}が老熟した概^{おむき}がある。知人の一室を借りて全く孤独の生活を送つ

ているところは、昔なら、伴蒿蹊が畸人伝の数頁を進んで割くだらうし、大バルザックにして今あらば舌なめずりをしながら、人間劇叢書中の少くも一卷は「荷風の生涯とそのアヴァンチュール」として読者幾万の興会を湧せることだらうと思った。

(昭和二十二年冬)

日本文学電子図書館

印象—永井荷風—

著 者：辰野 隆

制作者：宮澤一郎

底 本：「忘れ得ぬ人々と谷崎潤一郎」

中公文庫、中央公論新社

2015年2月25日 初版発行

日本文学電子図書館